

## 影山英男先生との懇談から

開倫塾

塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。先日、100マス計算で有名な影山英男先生のお話を、東京の経済同友会の会員総会で聴きました。「次世代の教育を考える会」の委員をしている私は、その後影山先生と2、3名の方と一緒に1時間ほどお話をさせていただきました。今朝は、その報告をします。

影山英男先生は、広島県尾道市にある藤堂小学校の校長先生です。地域に根ざしたコミュニティースクールをつくるという尾道市教育委員会の趣旨のもと、この小学校では、校長先生を公募しました。それにより、影山先生は、昨年校長先生になりました。この小学校で教える先生も、影山先生の教育に賛同する人を公募によって採りました。さらに、この小学校で学ぶ生徒も、学校自由選択で学区に関係なく集まりました。やる気のある校長先生、そこで勉強したいと希望する生徒が集まった学校で、素晴らしい教育が行われています。

影山先生のお話の中で、私が感銘を受けたことをお話します。教科を教える前に大事なことがあり、それは生活習慣の確立であるということです。「すべての子供に基礎学力を」が影山先生の基本理念ですが、昨今の子供たちの学力が低下した一番の原因は、テレビの画面に接する時間が長すぎるのだそうです。これにより、生きる力、元気がなくなってしまうからです。よって、テレビの画面に接するのは最長2時間までとする。

また、先生は、早寝・早起き・朝ご飯を食べることを推奨しています。小学生は10時までに寝る。朝は早く起きて、しっかり朝食をとる。ご飯を食べると、そこに含まれる炭水化物によって脳が活性化されます。そして、声に出して本を読む。音読も脳を活性化してくれます。もっと効果が上がるのは、家族と話をすることです。ですから企業は家族にやさしい会社づくりをしてほしい。例えば、毎週水曜日の夜7時から家族全員で食事ができるようにしてほしいと、経営者をお願いしていました。

私も、両親と話をする、世の中のこと・世界の出来事・地域の出来事・大事なことなどを知ることができ、脳の活性化が図れると思います。それに加えて、新聞を読んで考えることも大事だと思います。ご家族が新聞を読んで考えたことを、お子さんに分かりやすく説明すると、脳が活性化します。それにより、学習意欲がわいたり、学習の動機づけができたり、頭の回転が早くなったりします。以上のようなことを実行すれば脳は活性化され、基礎学力をつけるために必要な生活習慣の確立もできると思います。

影山先生からお聴きしたお話の一部でしたが、参考にして是非実行してみてください。